

平成23年度 山口県立徳山高等学校(本校・全日制) 学校評価書 校長(竹本 芳朗)

1 学校教育目標	
(1) 勢いと動きのある学校づくり	①学年、分掌、事務室等との連携強化による組織力の一層の向上 ②現役合格率の向上と部活動・学校行事等の一層の充実 ③積極的な情報の発信 ④SSHへの積極的な取組 ⑤耐震化工事の中での円滑な学校運営の推進
(2) 授業が自慢の学校づくり	①わかる授業及び興味・関心を高める授業の展開
(3) 生徒が自慢の学校づくり	①文武両道を継承し、品格と教養のある生徒の育成 ②授業評価に基づく授業の改善・充実 ②心の教育の進展と生徒相互の信頼関係の確立
中・長期目標 … 伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成	

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
①	昨年度から5年間、文部科学省からSSHの指定を受け、研究開発課題に沿った研究活動を推進している。教科SSHの学校設定科目、高大連携や企業連携、海外研修などは概ね計画どおり実施できた。全校体制で研究開発に取り組むための校内組織づくりについては、今後、さらに検討を重ねていく必要がある。
②	運動会や徳高祭等の学校行事は、校舎の耐震補強工事の中で活動場所の制約を受けながらであったが、安全面に配慮しながら予定どおり実施することができ、生徒・保護者ともに実施内容に関する満足度が高かった。
③	学習指導については、各学年・教科で計画された自主ゼミや進進者指導、小テストや週末課題による指導が行われた他、進路指導課で計画された課外授業などが実施され、学力向上の取組が進められた。また、23年度から55分6限授業を実施し、週あたり33単位時間の授業時数を確保している。
④	生徒指導については、登校指導や頭髪服装指導を実施しながら、重点の4本柱である「遅刻防止」「掃除徹底」「挨拶励行」「服装清整」の指導に力を入れた。制服の着用状況、携帯電話の使用等には継続的な指導が必要である。
⑤	進路指導については、模試や課外の計画的な実施、進路だよりや進路講演会による進路意識の涵養、進路指導課・学年の連携による進路検討会の実施とそれを活用したきめ細かな個別指導などによって、生徒一人ひとりの進路希望実現に向けた取組を進めることができた。
⑥	部活動は今年度も生徒の参加率が高く、顧問の熱心な指導もあって、意欲的な活動が見られた。全国大会、中国大会に出場した部もあり、文武両道の伝統が継承されている。生徒会主催のボランティア活動も実施されており、こうした活動は生徒の人格形成や社会性向上の点からも重要な機能を果たしている。
⑦	保護者・生徒による学校評価アンケートの結果によると、学力向上に積極的に取り組んでおり、学校行事や部活動が充実しているといった点で評価が高い一方、シラバスの活用、環境美化、学校の規則を守ることなどが足りないという意見が見られる。
⑧	危機管理体制の強化について検討を行う必要がある。台風や豪雨による災害等が発生した場合の対応基準を保護者に早急に周知するため、緊急連絡メールの導入を検討する必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
①	周南地域の中核校として、学校行事やSSHの取組など特色ある教育活動を充実させるとともに、生徒の進路希望を実現させることのできる、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。
②	新学習指導要領への対応やSSHに係る学校設定科目の位置付け等を検討し、新しい特色ある教育課程を編成する。
③	国際性の育成や問題解決力の伸長、望ましい自然観や職業観の形成など、本校SSHの特色ある研究課題の解明に向けた研究開発活動を全校体制で推進するための校内組織づくりを行う。
④	学校の教育活動に関する情報を学校新聞やSSH通信等を通じて、家庭・地域に向けて発信しているが、ホームページを充実させることで、情報発信力をさらに高めていく。
⑤	授業アンケートを活用した授業改善や学年・教科等の連携による個別指導、課外授業の充実等によって学力向上を図る。
⑥	服装の清整、掃除の徹底、携帯電話の使用等を日常の学校生活の中できちんと指導し、基本的な生活習慣の定着を図ると同時に、校則やきまりを守る意識を高めていく。
⑦	校舎の耐震化工事の中で、教育活動が安全かつ適正に実施できるよう校内・外の連携を密にする。

4 自己評価					
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
総務課	教職員全員の協働体制による、学校行事等の円滑な運営の推進	各式典、全校集会、公開授業等について、関係分掌とのさらなる連携強化を図り、より円滑な実施方法等を確立する。また、実施時期等の見直しをする。	4: 全く問題なく実に順調に行われた。 3: 問題なく、順調に行われた。 2: 改善すべき点が多かった。 1: 行事が円滑に行われなかった。	3	「入学式」「学校説明会」等の主要な式典・行事は、例年通り事前打ち合わせにより、円滑に実施することができた。公開授業については、今年度も5月のPTA総会当日と9月の進路講演会当日に設定した。また、PTA総会を土曜日実施としたこともあり、多数の保護者に参観いただき、好評であった。8月実施の「学校説明会」は昨年度を上回る参加者があった。しかし、内容に関する参加者からの要望もあり、暑さ対策を含めて改善の余地がある。
	学校・家庭・地域のさらなる連携強化	本校と分校の連携強化をさらに進める。また、PTA常任委員のクラス選出により学級と保護者の連携を強化することも含め、PTA活動の活性化・円滑化をさらに進める。	4: 十分に連携でき目的が達成できた。 3: 課題はあるがほぼ達成できた。 2: 取り組んだが徹底できなかった。 1: 計画のみに終わった。	3	「入学式」を本分校合同で実施する上で、分校と事前に緊密な打ち合わせをすることにより連携強化を図った。しかし、分校生徒の下足スペースの確保など改善すべき点もあった。次年度から徳山北分校が開校となり、さらなる工夫改善が必要である。また、PTA常任委員の選出を地区別からクラス別に改めた。クラスから同数の役員が選出されるため、広く意見をいただくことができる。PTA常任委員会は今年度は年に3回開催した。

	積極的な情報発信の充実・強化	将来の情報公開に向けた「徳高ホームページ・クリック徳高」「学校新聞」「PTAだより」等による 効果的な情報発信を積極的に推進する。	4: 積極的に迅速な情報発信ができた。 3: 積極的な情報発信ができた。 2: 情報発信が十分ではなかった。 1: 情報発信に関して多くの課題が残った。	3	中学生向けの「クリック徳高」、校内生徒向けの「学校新聞」、保護者向けの「PTAだより」、学校説明会配布の「きらめく徳高」のスムーズな発行により、迅速な情報発信をすることができた。しかし、「徳高ホームページ」については、定期的な更新ができていない、SSHに指定されたこともあり正確な情報を迅速に公開することが不可欠であることから、他の分掌や外部の関係機関と連携協力を図り、充実強化に努めなければならないと考える。
教務課	○教育課程の適切な実施	・55分6限授業の円滑な実施。	4: ほぼ円滑に実施できるとともに、改善点を明確にできた。 3: 事前の検討にもかかわらず、改善すべき点が多数生じた。 2: 事前の検討が不十分で、数多くの改善点が生じた。 1: 事前の検討が不十分で、改善点の発見にもいたらなかった。	4	55分6限授業の実施にあたっては、あまり大きな変更を伴わなかったでほぼ混乱なく実施できた。ただし、一斉小テストの実施時間帯は、課題である。改善が必要かどうかも含め今後協議を深めたい。
		・新学習指導要領実施に向けて、教育課程の研究・検討をする。	4: 研究・検討が十分に行われ、教員に周知できた。 3: 研究・検討は十分に行われたが、教員に周知できていない。 2: 研究・検討、教員への周知、いずれも十分できていない。 1: 研究・検討が不十分で、課題が山積した。	4	教育課程検討委員会を6回開いた。各会では、事前に研究・検討した資料の配付を行い、協議事項の明確化を図った。教科会議への浸透が不十分であり、論点が分散することもあったが、最終的には課題を共通理解しつつ教育課程を作成した。今後も、課題を克服すべく検討を続けた。
	○きめ細やかな学習指導体制の確立	・教員の連携を密にし、生徒一人ひとりの学力向上を図る。	4: 十分に連携でき、目的が達成できた。 3: 十分ではないが、ほぼ達成できた。 2: 取り組んだが、徹底できなかった。 1: 教員間の共通理解ができなかった。	3	学力向上を図る意欲は十分だが、課外授業担当者や部活動顧問の連携が不十分であった。協議する場を設けることで、連携を図る体制作りができた。
	○総合学習(キャリア教育)の充実	・主体的に進路を決定する態度、能力の育成を果たす年間指導計画の作成と実施。	4: 年間指導計画を作成・実施し、今後の課題が明確になった。 3: 年間指導計画を作成・実施したが、今後の課題が明確でない。 2: 年間指導計画を作成したが、十分実施できなかった。 1: 年間指導計画を作成したが、計画が大幅に変更された。	3	年間指導計画は、各学年ごとに作成され、ほぼ予定通り実施されている。生徒の評価に基づき、来年度に向けた計画を検討する。
生徒課	○規範意識の確立	* 頭髪服装の一斉指導(年間7回予定)や登校指導(4月～2月の火曜日と金曜日を中心に実施予定)、さらには街頭指導等を日常的に推進することによって、規律ある学校生活の中で生徒が自ら切磋琢磨し高め合う環境をつくる。	4: 掲げた目標を十分達成できた。 3: 掲げた目標をほぼ達成できた。 2: 努力したが課題が多く残っている。 1: 目標達成に至っていない。	3	生活指導重点4本柱「遅刻防止」「掃除徹底」「挨拶励行」「服装清整」を目標にした指導を各関係分掌と連携しながら推進した。年間7回計画している全校一斉の服装頭髪指導は3年目を迎え、全教職員に定着してきた。特に女子のスカート丈については、指導票の発行と反省文の提出による指導の強化徹底を今年度後期から進めている。また、全教職員による毎週2回の校門指導も実施し、「遅刻防止」「服装清整」および挨拶指導の日常化を継続している。教職員の指導に乗らない生徒も減少しているが、携帯電話使用規定違反にみられるように、中には基本的なマナーや規範意識が不十分な者もあり今後の課題である。
	○学校行事の成功	* 与えられた環境の中で、生徒自身が工夫して主体的に企画・運営をする本校学校行事を通じて、生徒一人ひとりが連帯感・達成感・自己有用感を高めることができるよう指導し援助する。	4: 行事の成功で生徒全員が成長した。 3: 多数の生徒が満足できる行事だった。 2: 生徒の自主活動・意欲が低調だった。 1: 行事の見直しが必要である。	4	耐震工事の中、二大行事やクリスマスマッチ等、生徒会や250名を超える実行委員会を中心に、全校生徒が主体的に活動し計画通り実施できた。そのことによって生徒の社会性や自己肯定感を育むことができた。
	○部活動や生徒会、委員会活動の充実	* 生徒の部活動加入を奨励し、学年を超えた生徒相互の自主的な活動を通じて、学校のさまざまな活動に積極的に取り組む生徒を育成する。このような方を根拠で支えるものが生徒と教師の適切な関係の内に存するので、生徒との関わり全体を通して挨拶その他のマナーを指導する。	4: 部活動や実行委員会の加入率が9割を超えた。 3: 部活動や実行委員会の加入率が8割を超えた。 2: 部活動や実行委員会の加入率が7割を超えた。 1: 部活動や実行委員会の加入率が7割未満だった。	4	文化部・運動部併せて90%以上の生徒が参加し、積極的に学校生活を送っている。また、多数の部において県大会上位入賞を果たしており、中国大会・全国大会に出場した部もみられた。反面、将来的な展望を考慮し、部の再編にも乗り出している。この点については生徒の可能性や意欲を低下させないよう配慮しながら進めた。生徒会活動も活発で、後期生徒会では従来のボランティア活動や3年生への激励横断幕作製の他、新たにシニエスタ=タイム(10分間の昼寝時間)を設置し、全校生徒の協力を呼びかける等、意欲的である。生徒のこうした活動は人間の幅を拡げ、人格形成に資する貴重な体験の場となっている。引き続き生徒の主体的な活動の活性化に取り組むたい。
進路指	○きめ細やかな進路指導体制の確立	* 面談週間を年間2回設定すること等により、生徒一人ひとりの実情に応じた進路指導を行う。	4: 生徒の進路選択に大きく役立った。 3: 面談に前向きな生徒が多かった。 2: 生徒の関心はあまり高くなかった。 1: 面談はほとんど役に立たなかった。	3	年間2回の面談週間は予定通り実施し、生徒の実情に応じた進路指導を行うことができた。
	○目標達成のための学力養成と進路意識の涵養	* 「進路だより」の定期発行や進路講演会・学年集会等で、生徒の進路意識の涵養を図る。	4: 情報提供が保護者に十分伝わった。 3: ほぼ生徒・保護者に伝わり役立った。 2: 生徒・保護者とも関心が低かった。 1: ほとんど印象に残っていないかった。	4	「進路だより」では各学年ごとに独自の内容で時期に応じた進路情報を提供することができた。また、進路講演会や学年集会等を通じて、生徒の進路に対する意識を高め、時期に応じた進路指導を行うことができた。
	○各学年の重点目標	* 第1学年一学習オリエンテーションを実施するなど、『予習・授業・復習』サイクルによる学習習慣の定着を図る。	4: 生徒の家庭学習習慣が定着した。 3: 生徒の予復習時間が増加した。 2: 指導の効果が顕著に見えなかった。 1: 指導が生徒の負担になった。	4	「学習オリエンテーション」等の4月当初の取組により生徒は「高校」の学習によりスムーズに入った。また、週末課題の提出や学習計画表の作成を通じて、計画的な学習をするよう指導した。

導 課		* 第2学年一学習計画表作成・受験アタック課外の実施等により早期受験態勢作りを促す。	4: 生徒の受験取組が十分できた。 3: 真剣に取り組み、学力が向上した。 2: 取り組んだがあまり効果がなかった。 1: 生徒の取り組みが低調であった。	4	学習計画表を作成し計画的な学習をするよう指導するとともに、進路講演会や学年集会を実施して、行事から気持ちを切り換えるよう促した。夏季休業中の課外やアタック課外では希望生徒が熱心に取り組み、着実に学力を身につけた。
		* 第3学年一学習計画表作成・センター試験対策講座の実施等により、受験学力の養成と切り換え指導を効果的に行う。	4: 取り組みにより学力が著しく向上した。 3: 真剣に取り組み多くの生徒が伸びた。 2: 取り組みの成果が十分現れなかった。 1: 受験体制への切り替えが遅れた。	3	学習計画表を作成し計画的な学習をするよう指導するとともに、学年集会やLHR等で進路に関する全体指導を実施した。文化祭の直後にはセンター試験対策講座や全員受験模試を実施し、同時期に面談週間を実施した。また教科別課外を実施し、断続的に様々な取り組みを行うことで生徒へ気持ちの切り替えや意識付けを図った。
教育相談課	○早期対応による学校不応の未然防止	* 学年会への積極的参加や学級担任との円滑な連携を図り、学校不応傾向のある生徒を早期に把握し、不登校等の未然防止につとめる。	4: 不登校の生徒が皆無になった。 3: 不登校対策や未然予防がほぼできた。 2: 教育相談室活用が不十分だった。 1: 学年との連携に課題が残った。	3	課内での連絡調整を頻繁に行い、チームとして教育相談に取り組むことができた。また、学級担任や養護教諭とも折りに触れて情報交換を行い、不登校傾向が心配される生徒に対して早期に相談できる体制づくりに努めた。
	○教育相談体制の充実	* 「教育相談だより」を定期的に発行し、生徒・保護者への情報提供を行う。	4: 保護者へ十分情報提供できた。 3: 紙面充実に努め、予定通り発行した。 2: 予定どおりには発行できなかった。 1: たよりの発行はあまりできなかった。	4	年間に六号まで発行する予定で、一月末で五号まで発行済み。内容の充実を図るとともに、生徒や保護者の心のケアができる記事になるように努めた。
		* スクールカウンセラーと連携して、生徒・教職員・保護者に対する啓発活動を一層充実させる。	4: 相談者の心のケアが十分できた。 3: 相談者の心のケアがほぼできた。 2: 教育相談の体制に課題が残った。 1: 教育相談が十分機能しなかった。	3	スクールカウンセラーの熱心な取組により、相談活動が円滑に行われた。年間に70名を超える相談件数で、事前の時間調整に苦労した。スクールカウンセラーの相談時間が限定されており、規定の時間内では相談者の十分な心のケアができなかったのが残念である。
	○特別な支援を必要とする生徒への対応の充実	* 多様化する生徒に対する校内の支援体制を作るとともに、教職員研修を行い、適切な支援のあり方について理解を深める。	4: 十分に生徒の心の支えとなれた。 3: かなり生徒の心の支えになれた。 2: 適切な支援として、課題が残った。 1: 適切な支援ができなかった。	3	個別の支援計画および個別の指導計画を作成し、教育相談課主導で支援を進めた。学級担任をはじめ、教科担任や部顧問との情報交換を行う機会を持つとともに、保護者が安心して生徒を登校させられるよう、学校全体での指導体制づくりに努めた。
	○人権に配慮した指導の充実	* 生徒の人権意識高揚のための研修を一層充実させ、地域・保護者からの学校教育に対する信頼を高める。	4: 生徒の人権意識が十分高まった。 3: 過半数の生徒の人権意識がついた。 2: 関心を寄せる生徒が少なかった。 1: 研修の成果が出なかった。	4	本年度は「東日本大震災とボランティア活動」と題した講演会を開催した。震災の中で立ち上がろうとする人々に「現地の人たちが望むもの」を見つける活動について、実際にボランティアとして参加された方に講演していただき、多くの生徒に感銘を与えることができた。
図書視聴覚課	○読書活動の充実	* LHRでの図書館教育を実施し、感想文・作文・読書ノートを提出させる。	4: 課題提出率は非常に良かった。 3: 課題提出率は例年並みであった。 2: 課題提出率は例年を下回った。 1: 課題提出率が顕著に低かった。	4	1年生の読書ノート提出状況は非常に良かった。また感想文や短歌、エッセイなどにも積極的に応募し優秀賞や優良賞などそれなりの成果をあげた。
		* 新着図書案内、図書新聞、特定テーマの企画展示、出張貸出等を行う。 * 総合的な学習の時間等でのクラス単位の利用を勧める。	4: 利用者数が例年より多かった。 3: 利用者数は例年並みであった。 2: 利用者数がやや少なかった。 1: 利用者数の減少が顕著であった。	4	新着図書案内、図書だよりの定期的な発行、図書室企画などをすることにより生徒の読書意欲をかきたてることができた。昨年にくらべ利用者数は700人、貸出冊数は600冊とかなり増えた。
	○図書室利用の促進とマナーの向上	* 図書室でのマナーおよび図書貸出規定の遵守を呼びかける。	4: 常に快適に利用できる状態だった。 3: 大きな問題は感じられなかった。 2: 時にマナー向上指導の必要を感じた。 1: 利用マナーが悪かった。	3	図書室内でのマナーは、良好であった。一部の生徒に対して図書返却の督促の指導が必要であった。
	○機器の利用しやすさの向上	* 機器の使用をよりわかりやすく、誰でも運用ができるシステムとする。	4: 行事等では全く問題なく運用できた。 3: 行事等ではほぼ問題なく運用できた。 2: 運用システムに不安な点がある。 1: 運用に不備があることが多かった。	3	通常の運用は良好だが、徳高祭等、特別な機器の運用がスムーズにいくよう工夫が必要である。
厚生課	○校内美化の推進	* ゴミの分別指導の徹底	4: ゴミの分別が完全にできた。 3: ゴミ分別に対する意識が高まった。 2: 分別が不十分なところが少なかった。 1: ゴミ処理のマナーが低調であった。	3	今年度から新しいゴミ分別方法にしたが、教室内の清掃・ゴミの分別は大意できていた。この方式を今後も定着させたい。
		* 生徒による清掃状況検査を実施する。	4: 生徒は非常に意欲的に取り組んだ。 3: ほぼ期待通りに生徒が取り組んだ。 2: 生徒の取組状況に課題が残った。 1: 生徒の取組意欲が低かった。	3	掃除分担の割り当ては厚生委員により作成し、実施できた。3年生がいなくなる2月からの分担割り当てもスムーズに行えた。
		* 厚生委員会活動の活性化を図る。	4: 生徒の美化意識が非常に高まった。 3: ゴミ放置がほとんど見られなかった。 2: 美化指導の必要をより強く感じた。 1: 生徒の協力が得られなかった。	3	ゴミの分別作業は厚生委員が分担して行っており徹底できた。
		* トイレスリッパの整頓活動を実施する。	4: スリッパは常に整頓できていた。 3: スリッパはほぼ常に整頓できていた。 2: 時々整頓できていない日もあった。 1: スリッパが乱れていることが多かった。	3	概ね整頓できていた。注意をしないと時々散乱しているときがあり、継続的な指導が必要である。
	○防火訓練の徹底	* 迅速な避難と防火意識の涵養をはかる。	4: 適切な避難訓練が実施でき、生徒の意識が非常に高まった。 3: 適切な避難訓練が実施できた。 2: 生徒の取組に課題が残った。 1: 生徒の取組意識が低かった。	3	6月の避難訓練、10月の避難、防火訓練は予定通りの訓練ができた。生徒の参加意識も良好であった。
	○安全性・可用性の向上と維持	* webページの充実や校内データの安全な共有により、校内外両方向への速達性を向上させる。	4: 校内外での共有は完全であった。 3: 現段階では特に問題はない。 2: 今後改善すべき点がある。 1: 運用に遅延や不足する部分が残っている。	2	緊急連絡の掲示はほぼ予定通り行い、定期的に総務課から提供される「クリック徳高」の掲載は行っているが、根本的なデザイン変更と更新手段については現在も模索中である。

情報企画課		* インターネット上の資源の適切な利用と、その手段の周知を図る。	4: 全員に十分な啓蒙ができた。 3: 多数の教員生徒に啓蒙ができた。 2: 取り組んだが徹底できなかった。 1: 計画のみに終わった。	3	教員用ノートパソコン24台の変更に伴い、セキュリティ確保のための設定を行うとともに、古い機器の撤去を行った。
		* 保有する情報機器の保守・分配を適切に行い全校での有効活用を期す。	4: 管理を適切に行い、利用も完全であった。 3: 適切な維持・管理ができた。 2: 十分な管理ができないことがあった。 1: 管理が不適切で業務に支障を来した。	3	生徒授業用のパソコンやサーバの更新に伴い、機器とソフトウェアのライセンスの整理を行った。
保健体育課	○たくましく生きるための体力の向上	* 運動を楽しんだり、競い合ったりする中で、仲間との連帯感を大切にし、自己の体力と運動能力を向上させる。	4: 常に仲間と運動を楽しんでいた。 3: 仲間と運動を楽しむ生徒が多かった。 2: 運動を楽しむ生徒が半数程度だった。 1: 運動を楽しまない生徒が多かった。	3	集団の中で、運動を楽しみながら体力や運動能力の向上をはかる意識はみられるが、まだまだ個人差も多々あり、個人レベルでの意識の向上を図っていきたい。
	○望ましい人間関係づくりの形成	* 集団行動を通して、基本的な生活習慣を確立させる。	4: 集団中の個の意識は非常に高い。 3: 集団中の個の役割を知る者は多い。 2: 集団行動になじまない生徒がいた。 1: 集団中の個の自覚がない者が多い。	3	集合時間の厳守、整列・挨拶の徹底等、各教員が強い意識を持って取り組んでいるため、始業と同時に授業は進められるようになっている。
		* 健康相談活動により、自分の思いや願いを話すことが出来る生徒、人との関わりが出来る生徒を育てる。	4: 全員が人の気持ちを大切に行動した。 3: ほぼ人の気持ちを考え行動していた。 2: 人への配慮しない者が少しいた。 1: 相談が必要な生徒が多かった。	3	練習・ゲームの中で、相手を思いやる声が聞こえるようになった。総務を中心として、クラスでのまとまりもみられるが、クラスによっては、生徒の意識レベルに差がみられるため、引き続き指導に力をいれていきたい。
理科科	○科学的に考察し、処理する態度の育成	* 3校(岩国/徳山/山口)合同理数科セミナー(1年)、大学訪問(2年)、大学出張講義(1,2年)を実施する。化学課題研究【島田川の水質調査】を2年の春と3年の秋に実施して実施学年の移行を図る。	4: セミナー等の目的を十分達成できた。 3: セミナー等の目的をほぼ達成できた。 2: 達成したが今後改善の余地がある。 1: 次年度への課題がいくつかある。	4	岩国高校、山口高校と連携して合同セミナーを実施することができた。大学訪問では、山口大学理学部、農学部に加えて、九州工業大学での実習ができた。島田川の水質検査は、5月に2年生、10月に3年生を実施し、次年度から2年課題研究に位置づけられることとなった。1・2年合同の大学出張講義は、SSHによる出張講義が多くあるため、今年度は実施しなかった。
	○創造的な能力の育成	* SSHによる学校設定科目を効果的に実施する。 * SSHを活用し、企業・大学との連携を進めていく。	4: 教育効果の高い活動が十分できた。 3: SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2: SSHの活動の一部がやや遅れた。 1: 予定した活動ができなかった。	4	SSH学校設定科目が効果的に行われた。「ライフサイエンス」で山口県立大学の教授による「表面張力と界面活性剤」の講義等大学との連携を深めることができた。「情報科学」では、ロボット教材を20台購入することで、効果的な学習活動ができた。
第1学年	○主体的な学習態度の確立	* 予習・授業・復習のサイクルを定着させ、主体的に学習に取り組む習慣をつけさせる	4: 主体的な学習態度が十分定着した。 3: 主体的な学習態度が概ね定着した。 2: 主体的な学習態度があまり定着しなかった。 1: 主体的な学習態度がほとんど定着しなかった。	3	各教科において、予習→授業→復習といった学習習慣の定着をはかっている。予習・復習が不十分な生徒も見られるが、教科担当と担任で連携を取りながら指導を続けている。また、週末課題や小テストの事後指導等を粘り強く継続的に行っており、校外模試では、その成果も徐々に現れている。より一層、主体的な学習の取り組みができるように引き続き支援していきたい。
	○基本的な生活習慣の定着	* 挨拶の励行、言葉遣い、時間厳守、遅刻・服装などの指導を通して規範意識を高めさせる	4: 規範意識が十分につけてきた。 3: 規範意識が次第に高くなってきた。 2: 規範意識に大きな変化はなかった。 1: 規範意識に欠ける者が増えてきた。	3	入学当初から、比較的落ち着いた学校生活を送っており、遅刻・欠席も少ない。また、挨拶も例年以上よく行っている。頭髪服装指導や携帯電話の使用に関して、注意を受ける生徒が若干名いるが、担任や生徒課の指導には素直に従っており、改善が見られている。
	○生徒の問題への早期対応	* 生徒と積極的に関わり合いをもち、各教員との連携を図り、組織的に生徒・保護者への支援を行う	4: 適切な連携がとれ問題を十分解決できた。 3: 様々な連携のもと多くの問題を解決した。 2: 連携は図られたが問題も残った。 1: 連携が不十分で問題を多く残した。	3	生徒の問題について、担任・学年を中心に情報交換を行い早期に対処している。指導に特別な配慮が必要な生徒については、関係職員を中心に全教職員で取り組んでいる。今後出てくるであろう学業不振に苦悩する生徒に対しても、教員間で連携を取りながら密に指導していきたい。
第2学年	○基本的な生活習慣の確立	* 遅刻の防止・集合時間の厳守・服装の清整・掃除の徹底などの指導を通して、自己管理能力の育成をはかり、学校生活・社会生活におけるマナーを身につけさせる。	4: 生徒全員の自己管理能力が十分に身についた。 3: 過半数の生徒の自己管理能力が概ね身についた。 2: 過半数の生徒の自己管理能力があまり身につかなかった。 1: 過半数の生徒の自己管理能力がほとんど身につかなかった。	3	全体的に落ち着いたが、学校に対する馴れによる心の甘えが行動に現れ、良き先輩として後輩への対応のとまどいから指導を要する生徒も多少いる。しかし、指導に対しては概ね素直に従っており、良い方向に進んでいる。遅刻・欠席はあまりなく良好である。継続して、根気強く指導することにより、基本的な生活習慣をしっかりと身につけさせ、社会に貢献できる人物となれるように支援していきたい。
	○学習に対する意識の高揚	* 学問に対する興味を深め、授業を大切に、課題・小テストや家庭学習などを通して学力の向上をはかり、学ぶことに対する意識をより高める。	4: 学習意欲が高くなり、学力が十分に伸びた。 3: 学習意欲が高くなり、学力は概ね伸びた。 2: 学習意欲がやや低く、学力もさほど伸びなかった。 1: 学習意欲が低く、学力も伸びなかった。	3	生徒一人ひとりの学習に対する意識の違いが出ている。年度当初は、進学に対してまだ遠い先のことだと考えている者が多く、学習への執着心を欠くこともあった。しかし、修学旅行や文化祭を終えた頃から、自分の将来の進路について考える生徒が増えている。その影響もあり、徐々に学力向上を意識し始めた生徒を多く見始めた。この雰囲気をもとに、機を逃さず指導していきたい。
	○行事等を通しての人間形成	* 部活動・運動会・徳高祭、修学旅行、及びSSH研究発表会などの行事を通して、視野を広げ、他者関係性と豊かな感性を育成する。	4: 他者関係性と豊かな感性が十分に身についた。 3: 他者関係性と豊かな感性が概ね身についた。 2: 他者関係性と豊かな感性はあまり育成できなかった。 1: 行事の取り組みが十分ではなかった。	3	修学旅行では、時間を良く守り、きちんとした集団行動がとれ、貴重な体験をすることができた。部活動・運動会・徳高祭には積極的に取り組み、学校全体を盛り上げている。特に、徳高祭は学校の耐震化工事の影響もあり、いつもとは勝手が違っていたが、無事に成し遂げた。SSH研究も順調に進んでおり、想定した目的を達成している。この調子で、3年生へと成長して行くことを切に望んでいる。

第3学年	○学力の向上	* 授業を中心として基礎学力の充実を図り、さらに生徒一人ひとりの進路実現に対応した学力を身につけさせるための指導(定期的な小テスト、課外等)を行う。	4: 生徒全員の学力が非常に伸びた。 3: 過半数の生徒の学力が向上した。 2: 学力は伸びたが十分ではなかった。 1: 学力はあまり伸びなかった。	3	二大行事との両立を目指し、計画を立て、けじめをつけながら努力している様子がうかがわれる。行事後は、昼休みや放課後等、あき時間を積極的に使い、学習に励む姿が見られるようになった。早朝の課外や放課後の課外も多くの者が受けており、自ら取り組む姿勢が見られるようになった。
	○学校行事の成功	* 二大行事(運動会・徳高祭)に向けて、中核となるリーダーを養成し、クラス・学年のまとまりを図る。また、行事を成功させることにより、社会的に生きる力を養う。	4: 団結力、指導力が十分発揮できた。 3: 非常に熱心に取り組むことができた。 2: やや熱心に取り組むことができた。 1: 取り組みに熱意が感じられなかった。	4	各団、クラス、生徒会ともに、計画、役割分担等の事前準備をよくし、運動会、徳高祭の二大行事を成功させた。各責任者はリーダーシップをよく発揮し、また、生徒一人一人が役割を果たし、よくまとまり協力態勢をつくることができた。短い準備期間の中で、有効に時間を使い、自分の都合を抑えながら、全体のことを考え行動することを身につけてくれた。
	○進路の実現	* 生徒一人ひとりにしっかりとした目標を持たせ、その実現に向けて面談等を活用して、きめ細かい指導を行う。	4: 全員が目的を持って進路を選択した。 3: ほぼ全員が希望進路を見つけた。 2: 進路選択に迷う生徒がみられた。 1: 進路選択を決定しない者が多かった。	3	面談週間や、保護者との三者面談を通して、自分の目標を次第に具体的なものにしていった。今後も、生徒一人一人にあった、きめ細かい指導を続け、最後まで諦めることなく、粘り強く努力して、自己の目標の実現を果たして欲しい。

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

- ① 昨年度、文部科学省からSSHの指定を受け、2年次の活動を行った。学校設定科目、高大連携や企業連携、海外研修などに加え、課題研究の発表会、活動報告会も無事終了し、指定2次の研究開発は大変充実した内容で実施できた。SSH推進委員会も発足して6回の会合により、ほぼ全校体制で研究開発に取り組むことができた。
- ② 本年度の運動会は台風の影響により、1日延期し月曜実施となったが、多数の観客が訪れた。徳高祭にも多数の観客が訪れた。両行事とも耐震化工事は一部残っていたが、大きな支障なく実施できた。
- ③ 昨年度まで、50分と60分の隔限授業を実施していたが、本年度から55分6限授業に変更した。週あたり33単位時間の授業時数は従来と同じだが、単純化することで、時間変更等が行いやすくなり、自習時間の削減ができた。また、小テストの時間帯を午後に変えることにより、より時間を節し、授業時間の確保ができた。
- ④ 生徒指導においては、体育館で全校一斉の頭髮服装指導を開始した。このことにより、頭髮や制服の着こなしについて生徒の理解が深まってきた。本校生徒指導の4本柱である「遅刻防止」「掃除徹底」「挨拶励行」「服装清整」についても継続的に取り組んでいる。携帯電話の使用マナーについては継続して厳しく指導しているが、引き続き取り組みが必要である。
- ⑤ 進路指導として、従来からの模試課外の計画的実施、進路だよりや進路講演会の開催、魁講座の実施に加えて、進路課・学年の連携による進路検討会の実施を継続している。管理職も参加して、学年担任が生徒の学習状況を詳しく把握し、進路指導および教科指導に生かしている。
- ⑥ 部活動においては、顧問の熱心な指導もあって、本年度も生徒の意欲的な活動が見られた。全国、中国大会等に出場した部もあり、文武両道の伝統が継承されている。本年度は山口国体が開催され、運動部の生徒が中心となって支援し、国体の成功に協力した。
- ⑦ 保護者・生徒による学校評価アンケートの結果では、学校行事や部活動が充実しているといった点で評価が高く、シラバスの活用、環境美化、学校の規則を守る項目の評価が低い。評価結果を受けて、評価の低かった項目について改善を進める必要がある。
- ⑧ 今年度から、携帯メールの配信を開始した。本年度の配信は4回であったが、生徒への情報伝達が早く伝わるため、混乱を避けることができた。しかし、地震や津波など新たな危機管理体制の強化について今後検討を行う必要がある。

7 次年度への改善策

- ① 周南地域の中核校として、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。特に学校行事やSSH等へ積極的に取り組むと同時に、質の高い授業を行うことにより、生徒が希望する進路に進めるよう最大限努力する。
- ② SSH3年次の取組を全校体制で行う。引き続き国際性の育成や問題解決力の伸長、望ましい自然観や職業観の形成などを旨とした研究開発活動を推進していく。
- ③ 学校生活アンケートや生徒による授業評価を活用し授業改善を行う。また、模試分析会、個別面談や課外授業等の教育活動を積極的に行い、生徒の学力向上に努める。
- ④ 学校の教育活動に関する情報は従来から学校新聞やクリック徳高等を通じて、家庭・地域に向けて発信している。今後さらに情報発信能力を高める必要がある。学校ホームページの充実が喫緊の課題であり、全面リニューアルすべく検討を進めていく。
- ⑤ 服装の清整、掃除の徹底、携帯電話の使用等を日常の学校生活の中できちんと指導し、基本的な生活習慣の定着を図ると同時に、校則やきまりを守る意識を高めていく。
- ⑥ 耐震化工事本年度で全て終了した。今後は緊急メールの早期配信に努めるとともに、地震災害も含めた避難訓練を行うなど、危機管理意識を高める教育を推進していく。
- ⑦ 学校行事や課外授業のあり方、特別な支援が必要な生徒への援助や教職員の業務改善など、本校が抱える課題について、全教職員で情報を共有し、協力しながら改善を進めていく。